

部門長 告辞

東北大学学位プログラム推進機構リーディングプログラム部門長として、2016年度のリーディングプログラム院生認定式の開催にあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

東北大学博士課程教育リーディングプログラムである「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」の第4期生となる21名の皆さん、そして「マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラム」の第3期生となる12名の皆さん、本日、皆さんをこうしてリーディングプログラム院生として認定できることを大変嬉しく思います。「俯瞰力と独創力を身につけた産学官で活躍できるグローバルリーダーを養成する」という博士課程教育リーディングプログラムに、果敢にチャレンジしようとする皆さんに敬意を表するとともに、心より歓迎いたします。

「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」では、この2月26日(金)と27日(土)に、このプログラムの目玉事業の一つであるConvergence-Laboratory (C-Lab) 研修の成果発表会とシンポジウムが開催されました。第4期生として本日認定された皆さんもこれらに出席されたことと思います。先輩方の生き生きそして澁刺とした発表に接し、自分も大いにやるぞと胸躍ることだったろうと思います。その気持ちを忘れずにこのプログラムに参加してください。

さて、「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」は、2012年秋の事業開始以来、昨年度が4年目でしたので中間評価が行われ、先月、この結果が公表されました。本プログラムは、「計画通りの取り組みであり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することができる」とのことでA評価を頂くことができました。本プログラムに事業担当者として参加している教職員の活動と、プログラムに参加している学生の皆さんの活動が、高く評価されたことで、大変喜ばしく思っております。

次に、2013 年秋から始まった「マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラム」では、今年度 4 年目を迎えることから、中間評価を受ける年に当たります。このため、これまでの活動を振り返り、不備な点などがないかどうか点検をしております。その一環として、外部アドバイザーとの意見交換が 2 月 29 日（月）に行われました。また、3 月 8 日（月）には、日本学術振興会からプログラムオフィサー（PO）がおいでになり、意見交換が行われております。

PO は、この意見交換を前に、今年度修士を終える院生に対する Quality Examination (QE) に立ち会いました。この QE には多くの企業の方も参加され、QE を受ける院生との間で活発な質疑応答をしております。QE 終了後の PO とプログラム教員との意見交換の場で、PO はこの QE を極めて高く評価されておりました。私はこのプログラムも順調に活動が進められていると判断しており、今年度の中間評価を無事乗り越えられるものと思っております。

さて、これから始まる皆さんのリーディングプログラム院生としての生活は、所属する研究科での学修に加えて、リーディングプログラムの学修や研修もこなす必要がありますので、ハードな毎日になると思いますが、是非、仲間とともに切磋琢磨し、能動的、主体的に学び合いながら、皆さん自身が思い描く将来のリーダーとしての“夢”を互いに共有し、実現していただきたいと思っております。

二つのリーディングプログラムは、本学が目指す「東北の復興・日本再生の先導」を実現するとともに、国際的に活躍できる指導的人材を育成するための非常に重要な事業であります。大学としてもこのリーディングプログラムの目的を実現するために、皆さんを積極的に支援して参りたいと考えています。

最後に、このリーディングプログラムにより、博士の学位を取得された皆さんが、将来、グローバルリーダーとして世界各地で場所を選ばず、あらゆる局面で活躍し、日本ひいては世界が抱える課題を解決しかつ発展することに貢献できる人となることを願って、私の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

2016年4月1日

東北大学 学位プログラム推進機構

リーディングプログラム部門長

教育・学生支援・教育国際交流担当理事

花 輪 公 雄